

2020 年度（令和2年度）

# 自己評価 報告書

学校法人巨樹の会  
福岡看護専門学校第1科

本報告書は、学校法人巨樹の会 福岡看護専門学校第1科の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2020年4月1日～2021年3月31日

2021年6月25日

学校長 松原 孝俊

副学校長 淀川 めぐみ（学校評価実施責任者）

## 1. 自己評価の概要と実施状況

### 1) 自己評価の目的、方針

- ① 教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ② 自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、教育活動や学校運営等について客観性・透明性を高める。
- ③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」、及び「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

### 2) 自己評価委員会委員(9名)

委員氏名	所属
松原 孝俊	福岡看護専門学校 学校長
淀川 めぐみ	福岡看護専門学校 副学校長 兼 第1科教務部長
松岡 泰裕	福岡看護専門学校 事務部長
萩尾 奈津子	福岡看護専門学校 第2科教務部長
田中 洋子	福岡看護専門学校 第3科教務部長
濱野 敦子	福岡看護専門学校 第1科教務主任
山本 真由美	福岡看護専門学校 第2科教務主任
野口 千賀子	福岡看護専門学校 第3科教務主任
福井 礼	福岡看護専門学校 事務主任

\* 委員会は5月、11月、3月(2回)の年4回開催

### 3) 自己評価方法

令和2年度の教育活動・学校運営に全般にわたり、項目Ⅰ～項目Ⅹの内容について教職員個人による自己点検・自己評価の機会を設け、集約した結果を参照し自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について検討を行い、学校関係者評価結果とあわせて教育活動、学校運営に役立てる。

## 2. 自己評価の内容

### 1) 評定基準

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)  
 A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)  
 B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)  
 C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

### 2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像  
 項目Ⅱ 学校運営  
 項目Ⅲ 教育活動  
 項目Ⅳ 学修成果  
 項目Ⅴ 学生支援  
 項目Ⅵ 教育環境  
 項目Ⅶ 学生募集  
 項目Ⅷ 財務  
 項目Ⅷ 法令等の遵守  
 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

## 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

### 総括

教育理念に沿った教育目的・目標が学生便覧に明記されている。人材育成像は、学生便覧・ホームページなどに掲載している。また、入学式後の保護者会でも本校の教育方針を説明している。

今年度は COVID-19 感染拡大により学習方法の変更があり、実習施設への説明、保護者への文書による協力依頼等実施した。また、例年実施しているオープンキャンパスも一部オンライン開催となったが本校の教育についての周知は図れたと考えている。関係業界に対しては実習指導者会議や高校訪問の実施、ブログによる発信にて本校の特色、教育の実状を公表している

看護師に求められているアセスメント力、看護実践力、コミュニケーション力を身につけられるよう高機能シミュレーターを活用し臨床場面を想定した教育方法を取り入れ医療界に求められているニーズに対応している。また、実習指導者会議等で育てたい人材育成像を伝え、臨地において様々な看護技術や患者支援について見学・実施する機会を設定し協力いただいているが、実習病棟や学生の状況で技術経験度には差が出ている。COVID-19 感染拡大により実習時期を変更したり短縮したりする科目もあったが、シャドー研修を計画し経験できるように計画・実施した。

卒業時満足度調査では、「教育理念に沿った教育を受けられた」は 100%の学生がそう思う(とてもそう思う 63%、そう思う 37%)、「専門的な知識・技術が身につく授業であり満足している」も 100%の学生がそう思う(とてもそう思う 57%、そう思う 43%)、「専門職として役立つことを身につける機会があり、満足している」も 100%の学生がそう思う(とてもそう思う 63%、そう思う 37%)という結果であった。

### 課題及び今後の改善方策

実習施設と連携を図っていく中でニーズを把握する機会を設け、卒業生の情報も得ていく。また、看護師として勤務した卒業生に本校での教育について評価してもらい次年度に活かしていく。

### 小項目 I-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

### ■コメント

学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し周知している。

## 小項目 I-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し周知している。  
オープンキャンパス、高校訪問、保護者会等で説明している。

## 小項目 I-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

主たる実習施設と毎月実習指導者会議を設け、学生支援について検討している。  
学生に求められているアセスメント力、看護実践力、コミュニケーション力を育成するために、シミュレーターを用い、臨床場面をイメージした演習を取り入れている。卒業後の評価を受け、また実習施設から意見をいただき、教育課程に反映させていく。

## 項目Ⅱ 学校運営

---

## 総括

学校法人巨樹の会の事業目標・学校の事業方針をもとに、管理目標を設定している。管理目標は各科で具体的な目標を立てて取り組み、評価している。これらには教員の意見が反映されており、その評価が次年度の方針に活かされている。また、教員個々がキャリア別達成目標に基づき、自己評価・他者評価をしてキャリアアップにつなげている。

さらに、委員会の設置により学校内の諸管理・運営について年度初めの目標・計画立案、中間・年度末評価を実施し、合同教員会議にて報告しPDCAサイクルを回している。

学校組織と諸会議規定、諸規定は明確になっている。また、学事システムや共有フォルダを活用し、業務の効率化を図っている。

## 課題及び今後の改善方策

特になし

## 小項目 II-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

教職員の組織は明確になっており、決定事項の周知、組織員の意見の活用はなされている。

## 小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

諸規定は各科で保管しており、いつでも教職員が閲覧できるようにしている。  
会議規程を策定し、意思決定機関を明確にしている。

## 小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

## ■コメント

科毎の共有フォルダの活用により、学年運営・実習運営の効率化が進んだ。  
学事システムは学生情報、特に成績管理を中心に構築され、セキュリティ管理されている。  
また、マークシートリーダーを活用し模擬試験の分析、終講時試験やミニテストに活用している。

## 項目Ⅲ 教育活動

---

## 総括

学生便覧に教育課程を明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、教育課程・授業計画を説明している。教育方法は看護実践者を育成するために毎年検討し工夫している。

実習は COVID-19 感染拡大により臨地ではなく代替実習となった科目があったが、状況を設定したシミュレーション教育、事例映像の活用、ロールプレイ等を実施し判断力・実践力につながるよう工夫し目標は達成できた。

授業評価については、内部教員は終講時に学生にアンケート調査を実施し、評価を受けて教育活動の達成度の把握と課題を明確にしている。また、非常勤講師についてもアンケート調査を実施している。前年度の課題であった授業評価の学生へのフィードバックについては内部・外部教員共に掲示し学生に公表している。

看護師国家試験合格に向けた取り組みとして、1年次より3年間を見据えた計画を立て実施している。特に3年生に関しては全教員で支援したが、実習終了が例年より1か月遅くなり、国家試験学習に専念する期間は短くなったが、計画的に学習できるように指導した。

卒業時満足度調査では、「国家試験対策、学習支援に満足している」は 97%の学生がそう思う(とてもそう思う 71%、そう思う 26%)であり、満足していた。「実習での教育・指導体制に満足している」は 91%の学生がそう思う(とてもそう思う 54%、そう思う 37%)という結果であった。

教員の研修に関しては例年より少なかったが、専門性を高める研修、特にシミュレーション教育、臨床判断能力の育成などオンタイムに必要な内容のオンライン研修に参加した。また実習指導者研修や看護協会へ「コロナ禍の実習の実際と学生の現状」について講師として派遣した。

#### 課題及び今後の改善方策

今年度は授業評価については学生へのフィードバックを実施できた。教員間の評価について今後は検討していく。

学生が学び方をイメージできるように看護技術教育をはじめとし卒業までの積み上げが見えるように教育内容・方法・評価の全体像を提示する必要がある。

#### 小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

開講時に詳細な授業計画を配布してはいるが、シラバスが抽象的な科目があり、学生の学びにつながるように回数ごとに内容・方法を記載する必要がある。

#### 小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

臨地実習においては、実習要項に指導要項を明記・周知し会議にて学習状況を把握している。COVID-19 感染拡大により臨地での実習が約3割減となったため、高機能シミュレーターを活用し、事例を設定し状況の中で思考・判断する機会を作っている。講義・演習・実習にルーブリック評価を導入しており、学生が学習活動を見えるようにしている。ルーブリックは毎年見直しをしている。

#### 小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学生よりアンケート調査の協力を得て、全教員が授業評価を実施し、次年度への課題を明確にした。非常勤講師についても評価を実施し、結果を伝えている。学生に対して尺度評価結果(グラフ)と自由記載の内容を教室に掲示しフィードバックした。

#### 小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

年間計画を立て 1 年次より個別に学習支援を実施、特に 3 年生は教員による冬季セミナー、特別講義、成績に応じたグループ学習、個人学習会、模擬試験等を実施している。COVID-19 感染拡大により例年と比較し、感染予防のため学校内での学習時間の確保が難しい時期もあったが、オンラインでの個別学習会を実施した。看護師国家試験の正答率を分析しカリキュラムに反映させていく必要がある。

#### 小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

学会および研修参加について規程細則で定められており、教員は希望の研修・学会に参加できるシステムになっている。今年度は COVID-19 感染拡大により研修参加は例年と比較して減ったがオンライン研修に参加した教員もいる。

福岡和白病院実習指導者研修、福岡県看護協会へ講師として派遣した。

新人教員に対してはプリセプター・プリセプティ制度と役割別でのサポートを行った。

## 項目Ⅳ 学修成果

#### 総括

就職支援として、学生の希望を踏まえ、個別支援を行い就職希望者は全員の就職が決定した。関連病院への就職率は 62.8%で、目標であった 60%を超え関連施設のニーズは満たせた。2名は助産師学校、1名は短期大学保健師課程へ進学した。

国家試験合格に向けて、成績把握を行い、必要に応じて個別学習を実施した。看護師国家試験合格は前期卒業生含め 48 名中 93.8%(3 名不合格)であった。看護師国家試験対策について

は担任を中心に支援し学生の国家試験対策委員と情報交換し、時期に合わせた対策を行った。出題範囲が広いため、少しずつでも継続的に学習を進めていくことが何より大切であるため、学生一人一人に合わせた方法で支援していくことが重要である。卒業時満足度調査では、「国家試験対策、学習支援に満足している」は 97%の学生がそう思う(とてもそう思う 71%、そう思う 26%)でありおおむね満足していた。

退学者については一昨年度の卒業生は 1・2 年次に進路変更した学生が多かった。昨年度から退学率の低減を目指し、教員で問題共有しそれぞれ個々の学生の状況に合わせ支援に努めた。各学年の担当教員を複数制とし、年度初めに個人面談を実施し、学生の状況把握を行っている。学習困難、実習でのつまずきに対して早期にキャッチし、学生個々のペースに合わせて支援するなど状況に合わせた学びを支援している。学年間の交流を図ったり、保護者の協力を得たり、学生カウンセリングを活用したりしている。オンライン学習中もオンラインでカウンセリングを実施した。令和2年度の退学者は1年生1名、3年生3名であり、令和元年の6名からさらに退学者は減った。

#### 課題及び今後の改善方策

看護師国家試験については3名不合格となった。次年度は全員合格を目指し、学習の取り組みの動機付けと学習習慣の確保と継続性が課題である。学生自身が危機感をもって自主的に取り組めるような関わりをし、学習時間の確保と個々に合わせた学習方法を早期に確立することが出来るように支援することが課題である。

退学者の低減に向けて、学生一人ひとりへの個別の関わり、学年を超えた学生交流の場の提供、全教員がいずれかの学年を担当する体制づくり、実習施設という学ぶ場の変化や求められる実践対応力について共に考え気づけるような支援をした結果、改善している。今後も継続していく。

#### 小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

就職希望者全員が就職し、進学希望者3名が希望校に進学した。

#### 小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

卒業時満足度調査では、国家試験対策、学習支援に満足していたが、看護師国家試験合格

率は 93.8%であった。

#### 小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

ここ数年の退学者の進路変更理由を分析し、今年度も具体的な支援方法を明確にして取り組んだ。一人ひとりに合わせた支援方法を意識した。

#### 小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント

卒業後の活動把握については、関連病院や実習施設に就職した卒業生の把握は行えている。しかし、それ以外の卒業生の把握は不十分である。在校生の社会貢献については面談時に把握できた。卒業1年経過した卒業生へ本校の教育について自己評価を含めて調査予定である。

## 項目 V 学生支援

### 総括

学生支援についてはクラス担任を中心に全教員で行っている。卒業時満足度調査において就職・進学については履歴書・面接指導を実施し、おおむね満足していると答えている。

学生相談については、担任が主に行うが、複数担当制をとっており、複数の教員で対応している。スクールカウンセラーを2名(非常勤、男女1名ずつ)配置しており、学生が教員を介さず自由に直接カウンセラーに予約を取りカウンセリングを受けるシステムとなっている。カウンセリングが必要と考えた学生については、教員が学生に合ったカウンセラーを勧めている。

保護者との連携については例年各学年で保護者会を実施し、必要時個別に保護者面談も実施している。今年度は COVID-19 感染拡大により1年生の入学時1回しか実施できなかった。2・3年生は資料を配布し個別連絡とした。適宜、学生の学習状況、学校生活上で気になる状況がある場合は、保護者に連絡を取り保護者と共に学生を支援している。

高等学校との連携について、本校への入学生の出身校を中心に訪問し、本校の教育課程、学生支援状況や国家試験・就職状況について説明している。また、1校ではあるが医療系学校を受験希望の高校生への面接指導も実施した。

修学支援については奨学金窓口や学費相談の事務担当を設けており、学生の相談に乗るよ



うしている。

#### 課題及び今後の改善方策

引き続き、学生一人ひとりの状況に合わせて学習支援、進路指導を実施していく。

#### 小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

進路ガイダンス後、担任を中心に就職先決定の相談、試験までの指導等を行っている。今年度はオンライン面接の施設も多く、面接指導や面接環境確保への支援を行った。卒業時満足度調査では、「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は 97%の学生がそう思う(とてもそう思う 66%、そう思う 31%)とおおむね満足しており、就職希望者全員が就職した。進学希望者 3 名については希望校に進学した。

#### 小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

卒業時満足度調査結果では、「教職員の学生への対応に満足している」と回答した学生は、97%の学生がそう思う(とてもそう思う 66%、そう思う 31%)であった。「カウンセリングなどのサポート体制に満足している」も97%の学生がそう思う(とてもそう思う 71%、そう思う 26%)であった。スクールカウンセリングは毎回 4~5 名程度が利用していた。カウンセラーに限らず、担任が個別に継続的に面接していた学生が複数いた。

#### 小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

保護者会以外に、個別に学生支援に向けて情報交換や支援方法の相談を電話もしくは対面で行った。

#### 小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

高等学校を 40 校程度訪問し、在校生・卒業生の状況を伝えている。また、1 校ではあるが、面接指導を実施した。

#### 小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

奨学金や学費相談担当の事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。70%以上の学生が何らかの修学支援を受けている。校納金の支払いについて、必要な学生には相談にのっている。

## 項目 VI 教育環境

### 総括

昨年度、Wi-Fi 環境を整え、授業中活用し調べ学習や技術動画を見たりしていたが、オンライン授業実施で回線が増えると接続しにくい状況となっていた。アクセスポイントを設置することにより改善した。教室の音響設備の経年劣化に伴う交換、各部屋への電話の設置、オンライン学習環境のためのカメラや集音器の購入によりICT環境が整った。学生が使用するコピー機をカード式とし、価格を下げることで学生の経済的負担軽減に繋がった。図書室には学生や教員の意見を取り入れながら新刊書を購入している。また、高性能シミュレーターのレンタルも継続し授業で使用している。これらにより、学習環境の整備に繋がっている。

今年度は COVID-19 感染拡大により三密を避ける必要があった。できるだけ広い教室を使用し、サーキュレーターを設置、常時換気、アルコール消毒や環境クロスの設置など感染予防に努めた。

昨年度、災害時の対応、事故対応、メンタルヘルスをはじめとする学校管理マニュアルを作成し今年度見直しを実施した。

### 課題及び今後の改善方策

COVID-19 感染の終息まではまだ時間がかかるため、医療従事者として自覚を持った行動と学校としての環境整備を継続していく。広い教室数が限られており感染予防には工夫が必要である。

1・2科は授業時間が違うため、1つの実習室を共有している。しかし、実践力の強化を目指し使用頻度が増加している。ハード面は急には改善できないため、使用方法の工夫が必要でこれは継続課題である。

#### 小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

卒業時の満足度調査で「パソコン・インターネット等の情報設備や利用環境に満足している」は97%がそう思う(とてもそう思う63%、そう思う34%)、「技術習得のための教材・教具など学習環境に満足している」は100%がそう思う(とてもそう思う63%、そう思う37%)であった。

#### 小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

実習指導体制については各実習施設と実習前、実習中、実習後に検討し、学生の学びを保障している。実習指導者と教員の連携は十分に図れている。

#### 小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

毎年学生、教職員で避難・消火訓練を実施している。災害時の行動については、学生便覧に記載し、学生に伝えている。各学年の緊急連絡網はクラスラインを活用しており、学生にも周知している。学校のPCや担任の携帯電話の両方から SNS を活用し一斉メールも個人とのやり取りも可能である。教員に関しては SNS、連絡網を作成している。

## 項目VII 学生募集

### 総括

毎年、福岡県内を中心に高等学校を訪問し、学校紹介を行っている。今年度は COVID-19 感染拡大により訪問時期は例年より遅れたが、37校の学校訪問を実施した。訪問時、学生の状況を

報告し、本校の教育の実際について説明している。

学校説明会(オンライン同時開催)2回、オンライン説明会 1回を実施した。高校より依頼のあった職業紹介、面接指導は実際に高校を訪問して実施した。

### 課題及び今後の改善方策

特になし

#### 小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

特になし

#### 小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

#### ■コメント

高校教員やオープンキャンパス参加者には国家試験合格率や就職率や就職状況など具体的に伝えている。

## 項目VIII 財務

### 総括

中長期的な計画の下、学校運営がなされ、収支は安定している。

教育事業の方針を基に、各科から希望を出し予算を編成している。また、各校からの予算が本部で集約され、学校法人として許可され年度末に決算が行われている。

### 課題及び今後の改善方策

特になし

#### 小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

中長期的な計画の下、学校運営がなされ、示された収支は安定していると考ええる。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

事業計画に基づき各科から購入希望を受け妥当性を確認し、予算を立てている。決算の管理は管理部門で確認されており、収支バランスが示されている。理事会・評議員会で承認されている。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。ハラスメント防止策として、ハラスメント防止規程が示されている。教職員の休憩室にハラスメント委員の連絡先が書かれたポスターが掲示されている。また今年度、ハラスメントに関するアンケート調査が実施され、結果の開示も行われた。その結果、管理者研修を開催した。

個人情報に関しては、学校で作成しているガイドラインに基づき取り組んでいる。ガイドラインは学生にも提示し、実習前に実習施設に個人情報保護の誓約書を提出している。学生に対しては実習前・中・後に注意喚起を行い、適宜外部講師による研修を実施している。

実習期間中は学生もガイドラインに則り、患者の個人情報取り扱いに留意している。また、卒業時にも個人情報保護に関する誓約書をとっている。個人情報が記載された資料の管理は、梱包して処分されており、情報管理に努めている。職員の入職と退職の際に、職務中に知り得た情報の保護について、誓約書を交わしている。

課題及び今後の改善方策

昨年に引き続き、ハラスメントのアンケート結果を分析し、教職員全員に配布した。各校の状況・特徴に合わせた対応が必要である。学生への調査はできていない。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己評価・学校関係者評価を実施しており、適正な運営はできている。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めている。実習中に個人は限定されないが、情報の一部を SNS に掲載したインシデントが1件発生した。クラス全体で振り返りを実施し、二度と起こさないよう具体的に留意する行動を明確にした。

項目X 社会貢献、地域貢献

総括

学校施設は関連施設の研修や会議に利用できるようにしている。図書室は卒業生も使用できるようにしている。しかし、今年度は COVID-19 感染拡大により貸し出しはなかった。

福岡県看護協会、福岡和白病院主催の実習指導者研修に講師として派遣した。

学生のボランティアは、今年度はなかった。(中止になった)。

課題及び今後の改善方策

学生のボランティア活動については奨励したいが、情報量が少ない。COVID-19 感染状況によりや社会のニーズを見て、情報量を得て、学生に提示する機会を増やす必要がある。

献血協力などできることを奨励していく。



小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

社会状況に合わせて実施していく

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A      ■学校関係者評価: 適正

■コメント

社会状況に合わせて奨励していく